



2005 年 12 月 1 日発行  
発行人：徳丸 公義  
発行所：神戸市中央区海岸通 8  
神港ビルヂング 5 階 509  
TEL：078-393-0050  
FAX：078-393-0051  
E-Mail：[kobekeio@dream.ocn.ne.jp](mailto:kobekeio@dream.ocn.ne.jp)  
URL：<http://www.kobekeio.org/>  
編集：堀 友子・八巻 晤郎

## 《関西合同三田会開催》

### 記念講演「安西塾長の講演」レポート

王鞍 延子 (平4文・12経)



先ず、塾長は、城崎の西村屋さんという由緒ある塾員のホテルで、関西三田会の方々のお世話で、このような盛大な関西合同三田会が開催されたこと

に胸に迫り来る感動が湧いてきて、参加させていただいた事を心から感謝しますと述べられました。

次に、大学の現況について、①法科大学院の学生のレベルが高いこと ②湘南キャンパスにおいて、健康、医療、スポーツの面からマネジメントができる大学院レベルの人材を育成しようとしていること ③世界の主要大学、特に中国、アジアとの学生間の交流を深めているということでした。

それから、歴史の重みという点から、創立 150 年ということは日本の近代化、そして戦後 60 年の歴史そのものである。創立 50 年には、三田図書館、100 年には、日吉記念館などを建てて、後輩の学生達の為の教育に力を入れてきている。

創立 150 年において、慶應義塾大学は、社会に対して何をすべきかと考えた時、まず国際社会において、リーダーシップをとれる人材を育成すること、国際社会の変化に対応して、日本が日本の役割を考えて、行動していける人材を育成すること。そして国内の少子高齢化時代において

地域間、世代間の軋轢を超えて協力していけるリーダーを育成する使命がある。そのためには、創立 150 年の記念事業をこれからの後輩達に向け、教育の曲がり角といわれている日本の新しい教育のモデルを提示していきたい。

具体的には、日吉に国際的マネジメントやシステム設計の研究、三田にアジアとの関係の学部創設、また小中高を作る構想、古くなった校舎の建替えなどの目標を述べられました。

そして最後に、2008 年 11 月の創立 150 周年を皆様とともに祝いできるように健康に気をつけましょうと締めくくられました。

以上簡単にまとめました。私は、昨年そして今年も塾長さんのお話に感動し、多くの方々こんな素晴らしい場におられることをとても嬉しく思いました。

### ～～懇親会レポート～～

秋真っ盛りに、各地から貸切バス、JR、自家用車で遠路集結した塾員や家族総勢 270 余名。大広間二つを使つての大懇親会の始まり。

芦屋三田会辰馬会長ご提供のお神酒で賑々しく鏡開き、さていよいよ開宴となる。

城崎といえはなんとと言っても冬の味覚[カニ]。但馬三田会西村 肇会長の太っ腹を物語るような豪華カニづくし!・・・解禁直後のカニにひたすら取り組む参加者。

新鮮なカニを本場で堪能した面々は、和やかに他倶楽部の仲間と親睦を深めた。



お腹も程よく満たされ座が盛り上がる中、会も終盤に入り、[若き血]の大熱唱となる。応援指導部ならぬ素人リーダーの松尾茂生幹事（昭60商）の奮闘で、座敷狭しと全員が声張り上げ、一層の社中の絆を再確認した大いに意義のある一日であった。（記：堀 友子）



### 《秋の但馬路バスツアー》

玉田 和子（昭46文）

宿泊組は、総勢27名。温泉で一風呂浴びたり、朝市で地元の特産物をお土産に買い込んだりした後、7時朝食。品数豊富な和洋のメニューからお腹いっぱいいただき、大満足で朝食を終え、バスに乗り込む。青戸さんのお見送りを受けて、バスはほのかに朝靄に包まれた西村屋ホテル招月庭を、8時前出発。

柳並木の川沿いを走る。車窓から眼下に川を眺めつつ、電車にはねられ怪我の養生のため、かつてこの地に逗留した志賀直哉に思いを馳せる。彼は、ここで首に串を刺した鼠を見、偶然投げた石でいもりを殺し、「生と死は両極ではなく、それほど差がない」という心境になったのだなあと感慨にふける。最近では『城崎にて』が学校の授業で取り上げられる事はほとんどない。

香住に向かうバスの中で五代会長から、3人の後輩と前日から泊まり込みで準備に当たっていた塚本明久君（平9総）が三田会が終わった途端、抱きついて泣き出したので、ご苦労の礼を言いながら背中を抱いてやった事を温かく披露され、皆感動で胸を熱くする。

新バイバスができたお陰で大乘寺には9時前に到着。大乘寺は、別称応挙寺とも呼ばれる。勾配急な階段を上りきると、左右に樹齢五百年の樗、樹齢千年の楠が我々を迎えてくれる。早朝にもかかわらず、会長の友人である長谷部住職が直々に

寺内をご案内くださり、円山応挙とその一門の弟子たちが8年の歳月を費やして描き上げ、13の部屋が全体として一つの壮大な宗教空間を体感させる見事な障壁画と襖絵の数々を懇切丁寧にご解説いただく。その上、一般人が入ることを許されない仏間にまでお通しいただき、感激しつつ本尊の十一面観音を拝観する。

記念撮影後、もう暫く留まりたい心を残して、10時過ぎ次の目的地出石へ。

かすかに紅葉した秋の但馬路は、刈り取られた稲田がさながら薄緑の絨毯を敷き詰めたようで、美しい。

出石には11時到着。城跡を散策したり、名物の皿蕎麦を食べたり、土産物を買ったり、円座になって黒豆アイスを立ち食いしたりと修学旅行気分楽しい一時を過ごす。

1時に出石を出発するが、ここからバスの中はミニ宴会場。ビンゴゲームが始まり、1回目は田嶋さんが真珠のピンブローチを、2回目は堀さんが折り畳み傘を獲得される。

続いてカラオケの開始。裕次郎の歌を皮切りに「時代遅れ」「群青」「君がすべて」等々味わい深い歌が車内に流れ続け、神戸帰着直前までほぼ全員が歌い続けた。本当に楽しく心温まる関西合同三田会、ミニバスツアーだった。



今回但馬と神戸が担当したこの会が大成功裏に終わったことを喜びつつ、激務の中を細かく心を砕いて準備に当たられた両会長初め実行委員並びに幹事の方々には心からお礼を申し上げます。

【お礼】今回の宿泊組およびバスツアーに、瀬戸雄三顧問（昭28）と長谷川登喜会員（昭46文）から飲料のご提供をいただきました。この場をお借りしてお礼申し上げます。（幹事会一同）



# 会員だより

## 《標高 1,936mの離島を訪ねて》

森 隆 (昭 29 経)

その島は周囲 132 km、面積 503 km<sup>2</sup>、東西 28 km、南北 24 kmの凡そ円に近い日本で6番目に大きな島である。そして、海岸より聳える高い山々、1000m以上の山が45峯、一番高い山は海拔1,936m。こんな島が九州最南端から南方60kmの洋上に存在する。その島の名は、屋久島である。



私は山の道に魅せられて、70才より毎月のように山道を辿って来た。75才の誕生日を前に、今度は思い切って日本最南端の屋久島、日本百名山の一つである宮の浦岳を目指すことにした。

10月21日、伊丹空港より鹿児島、更に乗り継いで屋久島空港へ。そこからはレンタカーで宿泊先の民宿へ向った。

翌日は雨。登山は晴れの日と決めて、一日延期して島一周ドライブにした。道路はよく整備されており、ハイビスカス、ブーゲンビリア等亜熱帯の花木が多く、海は蒼く、山は険しく途中に100mもあるような滝や山々、ハワイのオアフ島郊外の景色とイメージがよく似ている。更に山岳地帯へ進むと、内地では見られないような巨木の原生林があり、猿や鹿の群れが林道を占拠している。まるまる太っているが、体は小柄で普通の半分位であるのが面白い。島の西端には、純白な灯台がある。これは明治時代に台湾航路の為に建てられたもの、その沖には口永良部島がくっきりと浮かんでいた。

10月23日朝、晴。朝4時に起床、弁当2食分を民宿で用意して貰う。4時半出発、外は真っ暗。車で20km約1時間かけて林道を登る。途中、紀元杉、川上杉の巨木の横を通過して登山入口に5時半到着。まだ暗い。朝食を車の中ですまし、6時より歩き始めた。大阪の高槻山岳会の人達、札幌の5人のパーティの人達と共に、原生林の中を進む。私はそのパーティの後を付いて行く。普通、山道は小高

い山や崖があると、そこを避けて進むけれども、ここの登山道は階段や梯子、更に岩場をロープで上ったり下ったり、平坦な所が少なく、アップダウンの連続で大変疲れる。杉や樅の大木の間を通り4時間かけてやっと投石平という見晴らしの良い所へ登りついた。それから上は景色一変、直径が50mもあるかという巨石がゴロゴロしており、まるで月の表面の様。今まで、私の登った山では見られない光景。その中を2時間かけてやっと正午に1,936mの頂上に着いた。360度の展望、空と海が何処までも蒼く、その接点では両者が渾然と交わっている。大きな宇宙の中に、唯一人居るような不思議な世界であった。30分の食事休憩。賑わっていた頂上も、いつの間にか人が疎らになり、気がつけば後には2組いるだけ。私も急いで下山を始めた。しばらく歩き、10分もすると追い抜かれ、そのリーダーの一人が私に、その歩き方では明るい内に下山するのは無理ですよと言われた。道は石と岩で滑る。私は2本のストックを突き、3点確保で一步一步そろりと足下に気をつけながら下っていた。この老人一人で大丈夫かなあと思ったのではなかろうか。

見晴らしの良い空と、山々の峯とが一体になる。山々には巨岩が転がり、下界の方は深い暗緑色に覆われている。その景色が3時を過ぎると、太陽

は西に傾き全体に金色に包まれ、そして赤味を帯びてくる。この不思議な色の変り様は、この世を離れて



天国への道に導かれている。現世を離れた気持ちであった。

更に下って原生林に入る。5時近くなったらすでに暗くヘッドランプを付けて足下を見つめながら歩いて、出発から11時間半かけて登山口まで辿り着いた。

そこは真っ暗、誰もいない。つまり私が一番最後。それから自分で車を運転して林道を下り、夕方の7時に無事民宿へ帰り着いた。

翌24日、飛行機の予約は午後であったが、空港

で朝の便を尋ねたら 1 席だけ伊丹までであるとの事で、早速変更して午後には無事自宅に帰った。

この日は私の誕生日の前日、74 才最後の日。私にとっては、一生忘れ得ぬ思い出となった。

## 《我が減量記》

藤井 文明 (昭 39 工)

昨年のある日、腹痛を催し、我慢できなくなって救急病院へ担ぎ込まれて診察受けたところ、いや診察を受ける前に尿を調べるのと尿を採ったところ真っ赤になっており、自分でもこれは尿路の病気と直感した。医師は慌てず騒がず尿路結石であり水を大量に飲んで自然治癒をさせるのが一番と、痛み止めを処方してくれたのみ。気分がすぐれないまま過ごした 2 日後に石が出てすっかり気分回復したが、後日の再診で血糖値が高いと指摘され、体重を減らせと命じられて、更に後日食事療法の指導まで受ける羽目になったが、聞くだけに留めて放置しておいた。しかし何となく気になり今年になって本格的にやってみようと一念発起して、食事量を少なくすることから始めたが、友人から聞いた「カロリーを消費するには燃やせ」の言葉に、要するに運動しなければ駄目で、実践あるのみを自覚した。それ以降は毎朝の徒歩を課してそろそろ 8 ヶ月になるが、体重は約 7 キログラムの減量になった。当面の目標まであと 2 キログラムとなり、ほぼ射程圏となった。「毎日」を実践するには言い訳を作らないことであり、雨だから今日は歩かないとは言わないようにした。雨が降っても長靴と合羽を着て、少し距離は短縮するがサボらないようにしている。継続は力なりとはこういう愚直さを言うのであろう。効果てきめんとは行かないがじわじわ効いて来ていることを実感している。

問題点はある。1 年ちょっと前に営業部長を兼務することになったので背広を 2 着新調したが、減量した所為でズボンがだぶだぶになり、あろうことか靴までゆるくなってしまった。顔は細くなったが首筋には皺が寄り、ワイシャツの襟の寸法より首が細くなって隙間が広がり、自分で鏡を見ても老け込んだなどのイメージとなって、減量はいいことばかりではないが、血糖値や血圧は何とか薬の処方なしで生活できる水準で推移しており、美味しい食事は避けて粗食を楽しんでいる。お酒？これが中々難しく、

これには言い訳を作って週のうち 3～4 日は少量の酒を飲んでしまっているのは意志の弱さを如実に現していると言って差し支えない。しかし一回に飲む量は確実に減らした。

平均余命を考えると、あと何年と勘定ができてしまい、この間を心配しないで気楽に過ごすか、用心しながら摂生して過ごすかは個人の判断であり、議論しても結論は出ない。しかし小生は後者を探ろうと思う。

## 同好会だより

### 囲碁同好会

#### 《女子プロを招き「特別例会」開催！》



11 月 4 日 (金) 倶楽部ルームにて特別例会を開催。7 月に続き、日本棋院・水戸夕香里女流プロ 3 段

を招き指導碁をお願いしました。当日は参加者 8 名、内 6 名が直接対局・指導を受けました。実に熱のこもった 3 時間で、対局者も観戦者も大変勉強になり棋力も一段と向上したように感じます。今後もまたこのようなイベントを開催したく思います。世話人：林 邦一 (昭 41 経)

### KKJC

#### 《4 大学ジャズコンサート》

秋も深まる 11 月 20 日、東灘の平生記念セミナーハウスで「4K サンデーアフタヌーンジャズ」と銘うってコンサートが開かれた。頭文字 K の甲南・関学・神戸女学院とわが慶應の 4 大学出身のジャズメンが競演するというので、メンバー数名で応援に駆けつけた。関西ジャズ界で有名な宮本直介・原田紀子さんなども登場して各大学の熱演が繰り広げられた。

わが塾は鍋島直和先輩を頭に小川理子・團裕子さんなど出演したが、鍋島さんのビブラホーン師弟対決や理子ちゃんのストライドピアノの独演はすばらしく、満場の拍手喝さいを浴びた。ランク付けこそしなかったが、慶應の圧倒的勝利であっ



たことは間違いないと思う。(これはひいき目かな…?)

最後は4大学入り乱れてのジャムセッションで約4時間の幕を閉じたが、とても楽しい半日だった。

ジャズのお好きな方ご連絡ください。

世話人：近藤 正

### マジック同好会

来年1月5日の賀詞交歓会でミニ発表会を行います。

例会は2月10日(金)の予定です。

世話人：塚本 明久(平9総)

### PC同好会

11月は休会となりました。

次回は12月16日(金)の予定。

世話人：市川 義人(昭57経)

### イーゼル会

#### 《今月の絵》



井上 翠(井上 光夫人)

### 会長のひそひそ話

天皇家から庶民になられた黒田清子さん。

このとげとげしい世の中に、ほのぼのとした暖かいニュースをこれからも私達に届けて下さいますようお願いしています。

## 会員の輪

### 《六甲全山縦走記》

宍戸 洋(昭58法)

私は、御影小学校、御影中学から神戸高校を経て、昭和54年塾に入学しました。現在は須磨区横尾に住み、永年神戸や六甲山に親しんで暮らしております。11月13日、須磨浦公園から宝塚までの六甲連山(56km)を歩き通す市民行事「六甲全山縦走大会」に参加して参りましたので、ご報告したいと思います。

午前5時、須磨浦公園で受付を済ませ、まだ真っ暗な山中でヘッドランプを点灯して歩き出しました。鉢伏山の急坂からは、明石海峡が真下に見え、黒い海に浮かぶ船と淡路島の灯が幻想的でした。高倉台、須磨アルプス(BRB2002/10 拙稿参照)を経て、わが町横尾を歩いている時、真赤な太陽が東南の空に燦然と姿を現しました。今日一日のエネルギーを与えられているかのように力づけられました。汗だけでハアハア喘ぎながら高取山、菊水山、鍋蓋山の頂上を踏み、10時30分頃、市ヶ原の河原に下りて来ました。ここから摩耶山頂までは、アップダウンを繰り返しながら500m程の標高差を稼ぐ厳しい道です。その道中で後ろを振り返ると、今まで歩いてきた山々が明石海峡を背景に連なっている光景を見渡すことができ、よくここまで来たものだと感心しました。やっとの思いで摩耶頂上に着いたのが12時。市民の会の方々がサービスして下さるホットレモンを有難く2杯頂き、砂漠のオアシスの様な癒された雰囲気の中、後半への鋭気を養いました。30分休憩した後、ホテル、ゴルフ場等お馴染みの施設が立ち並ぶ六甲山上を通り抜け、最高峰一軒茶屋に14時30分に到着。ここからゴールの宝塚に向け、閑静な森林の道を黙々と歩くこと2時間程で甲山が見えてきて一安心、陽も落ちかけた頃眼下に宝塚の夜景が見えて大感激。あとは一気に街へ駆け下り、ゴールインしたのが17時30分でした。神戸市長からの完走認定証と盾を手に、異様な達成感、爽快感、充実感、高揚感を味わいながら、夜の帳が降りた宝塚を阪急電車で後にいたしました。



## ～～12月家族例会のお知らせ～～

日時：12月10日（土）18：00に開場

受付は17時30分より

会場：神戸ポートピアホテル  
南館地下1階「サファイア」の間

会費：男性会員 9,000円  
女性及び卒後10年未満の会員 7,000円  
ビジターは男性 9,000円、女性及び  
中学生以上の男女 7,000円  
小学生以下 無料

### ♪～華麗なるハンドベルの調べ～♪

今年は、神戸YMCAの美女軍団！？によるハンドベルの演奏をお楽しみください。ハンドベルによる“ホワイトクリスマス”や“聖夜”等の曲の可憐な音色をお楽しみください。

ご家族お揃いでのご来場をお待ちしています。

### ★ オークションやります！ ★

倶楽部財源確保のため、当日は皆様からたくさんの品物のご提供とお買い上げをよろしくお願ひします。また当日欠席の方、大きな物、重い物を出される方はホテル宛てに送っていただければありがたいです。送料につきましては、勝手ながら各自ご負担願ひします。

送付先

〒650-0046 神戸市中央区湊島中町6-10-1

神戸ポートピアホテル 南館クロック気付

12/10 神戸慶應倶楽部届

Tel：078-302-1111

配達日指定：12月10日午前中

## ～～今後の行事予定～～

1月5日（木）	賀詞交歓会	倶楽部ルーム
1月27日（金）	1月例会	倶楽部ルーム
2月16日（木）	2月例会	倶楽部ルーム
3月24日（金）	3月例会	東天閣予定

詳細につきましては、BRB・メールマガジン等でお知らせしますので、毎月ご確認ください。

## ～～大阪慶應倶楽部からのご案内～～

### 《福澤諭吉先生生誕記念祝賀会》

日時：平成18年1月10日（火）18：00～21：00

会場：大阪リーガロイヤルホテル2階「桐の間」

会費：9,000円（平8卒以降は6,000円）

（ビジターは1000円プラス）

お申込みは大阪慶應倶楽部事務局にお願いします。

TEL：06-6202-0516 FAX：06-6202-4185

編集後記

○城崎の三田会も無事終わり、タイ旅行にも元気に出発されたようだし、残すは忘年会オンパレード・・・仲間との交流は何にも勝り本当に愉快です。来年も皆さまの投稿をお待ちしています。（ほ）

○関西合同三田会の実行委員のみなさま、ご苦労様でした。塾長の講演、懇親会、但馬路ツアーのレポートが三田会の素晴らしかったことや盛り上がり伝えてくれます。さて、今年も残すは一ヶ月、師走の気忙しさに取り紛れることなく一年を締めくくりたいものです。（晤）